

# タイ国メコン川におけるメコンオオナマズの追跡

山岸 祐希子 漁場学専攻

【目的】メコンオオナマズ (*Pangasianodon gigas*) はメコン川流域固有の種で、全長 3m、体重 300kg にもなる超大型淡水魚である。本種は近年のメコン川開発や乱獲により絶滅が危惧され、ワシントン条約附属書 1 に指定されている。タイ政府は漁獲制限を設けて天然資源の保護を目指すと同時に、2001 年に人工繁殖に成功し、資源の回復に努めている。しかし、天然河川に放流した人工受精魚の生態や資源添加の可能性は未知のままである。そこで今回、バイオテレメトリー手法によりメコンオオナマズの天然河川における行動生態を解明すると共に資源添加の可能性を検討する。

【方法】タイ国水産局内水面試験場の人工授精魚 10 尾 (全長 86~105cm、体重 9~17kg : 5 尾・全長 67~72cm、体重 4.2~5.4kg : 5 尾) を供試魚とした。2002 年 6 月 26 日、メコンオオナマズの腹腔内に超音波コード化発信機 (Coded V16, Vemco, Canada) を外科的手術により挿入した。Coded V16 は発信するパルス間隔から個体の識別を行う。翌 27 日、遊泳行動に異常がないことを確認した後、ナコンパノムのメコン川本流域に放流した。追跡には 2 種類の方法を用いた。放流直後の行動を測定する為に、調査船に追跡型受信機 (VR60, Vemco, Canada) とハイドロフォン (V41, Vemco, Canada) を設置し、27 日から 28 日にわたって追跡を行った。長期間の行動を測定する為に、設置型受信機 (VR1, Vemco, Canada) 5 台をメコン川沿いに設置した (Fig. 1)。メコン川における VR1 の受信範囲は半径約 300m で、その受信範囲に入った個体の識別番号と時刻を記録する。約 2 ヶ月後の 8 月 18 日に VR1 を回収して、内部記録をダウンロードした。

【結果】追跡型受信機を用いた実験では、放流直後から追跡した 4 個体すべてが放流地点から下流に 0.8~1.5km 移動した。設置型受信機を用いた実験では、10 個体中 4 個体が放流後 6~9 日目に 60km 上流の St. 1 で、1 個体が放流後 7 日目に 50km 下流の St. 5 で各々記録された。残りの 5 個体は放流後 1~6 日目を最後に記録が途絶えた。これらの個体は放流後、対岸のラオス国方向に移動した為、受信できなかったと思われる。

メコンオオナマズは、追跡型受信機を用いた実験では下流へ、設置型受信機を用いた実験では上流へ移動するという相反する結果が得られたが、今回実験に用いた個体が池内で飼育された人工授精魚であったことから、放流後、河川環境に適應するまで流速に逆らえず流されていたが、環境適應後は上流に移動したと推察される。下流に移動した 1 個体は、約 1 時間にわたって記録が得られていること、メコン川の流速が 4~6km/h であることから、少なくとも死亡による流下ではないことがうかがえる。

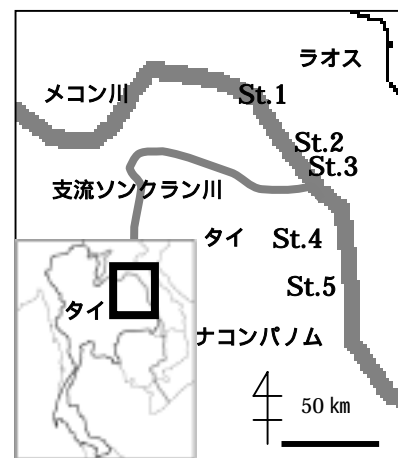


Fig. 1 メコン川調査水域と受信機設置地点( )および放流地点( )